

# はじめに

「ずっと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。」と結ばれている童謡詩人・金子みすゞの代表作『わたしと小鳥とずっと』。みんな違うけれど、それぞれによさがあり、それがいいという素朴で力強いメッセージが伝わってきます。違うことは本来、優劣ではないはずです。しかし、違うことで意思の疎通が難しかったり、悩んだり、苦しんだり、心を痛めたりしている方々も少なくありません。

札幌市では、発達障がいのある人たちが社会で十分活躍できるよう、支援体制づくりに取り組んでいます。この冊子では、これまで札幌市保健福祉局就労支援プロジェクトが制作してきた「虎の巻シリーズ」の「職場編」「暮らし編」に続く第三作として、主人公である「虎夫さん」「卷子さん」の小学校時代に遡ってみました。制作にあたっては、札幌市教育委員会と札幌市保健福祉局虎の巻作成プロジェクトが中心となり、発達障がいのある人たちへの支援に携わる関係者の協力を得ています。

発達障がいのある人などが、「止むに止まれず」起こしてしまう行動などに焦点を当て、その感情や行動の背景などを目に見える形で表現し、解決に向けた対応の一例を示しています。多様で豊かな価値感が共存する社会のために、この冊子を相互理解のきっかけとしてご活用いただければ幸いです。

札幌市教育委員会 虎の巻作成プロジェクト 札幌市保健福祉局

## 登場人物の紹介

虎夫くんは自閉症、卷子さんはアスペルガー症候群という広汎性発達障がいの診断を後に受けることになります。二人は様々な経験をしながら成長し、それぞれの職場で活躍していきます(詳細は『職場で使える「虎の巻」』、『暮らしで使える「虎の巻」』をご参照ください)。しかし、小さい頃の二人は…。



虎夫くん

虎夫くんは、まわりのことを考えたり、全体を見渡したりするのが苦手で、みんなで何かに取り組むときにちょっとしたトラブルを起こしがち。先生もクラスメイトもそんな虎夫くんとうまく関わらず、“ちょっと困った児童”として捉えていました。でも、まわりの考え方や接し方が少し変わることによって、虎夫くんの学校生活に大きな変化が!!



卷子さん

卷子さんは、周田とのコミュニケーションがうまくとれず、時としてえらそうに見えたり、いい加減な児童だと思われることもしばしば。友だちもそんな卷子さんに半ば呆れ顔で、人間関係をうまく構築できない状況にありました。でも、先生やお母さんがきっかけをつくったことによって、卷子さんの学校生活に大きな変化が!!

\*今回は、自閉症やアスペルガー症候群などの広汎性発達障がいの診断を受ける前の児童への対処方法を中心に制作しました。

この虎の巻は、当事者の方たちの体験談を元に、学校生活において、発達に凸凹のある

子どもたちのまわりで発生しがちな“認識の違いを **ギャップ!!**”として表現し、

その解決策となる支援ポイントを **チェンジ!!**”として示しています。

双方の理解が深まるほど **グッドジョブ!!**”という好結果につながります。

## 学校で使える「虎の巻」もくじ

### ●虎夫くん編

虎の巻 その一	得意分野 機会あれば才能発揮……………	4
虎の巻 その二	全体把握 見通し立てば迷わず集中……………	6
虎の巻 その三	音量調節 調和のカギは数値表示……………	8
虎の巻 その四	広がる世界 サポートで生まれる友達の輪……………	10



### ●卷子さん編

虎の巻 その五	計量マスター 詳細指示で誤りなし……………	12
虎の巻 その六	実演解説 実演と説明が手本をつくる……………	14
虎の巻 その七	直球すぎると 言い方変われば相手も変わる……………	16
虎の巻 その八	恋の話は慎重に タブーの理解でクラス円満……………	18



どの子も輝く学級へ…………… 20

発達障がいのある人々とは…………… 22

札幌市内の相談窓口…………… 23